

第2期
つくば市教育プラン
アンケート結果概要版

平成29年3月
つくば教育委員会

目次

I. アンケート調査結果の概要	1
(1) 調査の目的.....	1
(2) 実施状況及び回答結果.....	1
(3) 調査結果について（資料の見方）	1
II. 調査結果	2
(1) 児童生徒対象調査結果.....	2
(2) 教員対象調査結果.....	11
(3) 保護者対象調査結果	19
(4) 教員，保護者の比較	25

I. アンケート調査結果の概要

【調査の概要】

(1) 調査の目的

第2期つくば市教育振興基本計画を策定するにあたり、児童・生徒とその保護者及び教員にアンケートを実施し、つくば市の教育に対する意見を収集し、新計画に活用することを目的とする。

(2) 実施状況及び回答結果

平成27年度調査実施状況及び回答結果

対象	市内小学生(37校・4年生各小学校1クラス)	市内中学生(15校・7年生及び9年生各1クラス)	市内小中学校の児童生徒合計	左記の児童生徒の保護者	市内小中学校教員
対象総数	987名	1,066名	2,053名	2,053名	983名
回答数	939名	1,006名	1,945名	1,033名	977名
回答率	95.1%	94.4%	94.7%	50.3%	99.4%
実施方法	インターネットアンケート			紙媒体アンケート	インターネットアンケート

平成22年度調査実施状況及び回答結果

対象	市内小学5年生児童719人, 市内中学2年生生徒759人	市内小中学校の全教職員	市内小学5年生の保護者690人, 市内中学2年生の保護者749人	市内在住の16歳以上の方2,000人
対象総数	1,478名	1,000名	1,439名	2,000名
回答数	1,459名	991名	1,287名	803名
回答率	98.7%	99.1%	89.4%	40.2%
実施方法	紙媒体アンケート			

(3) 調査結果について(資料の見方)

- 回答結果の割合(%)は有効標本数(集計対象者総数)に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答であっても合計値が100.0%にならない場合があります。
- 複数回答の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
- 前回調査と比較するため、平成22年度調査結果を掲載しておりますが、設問により選択肢及び解答方法が異なるものもあります。そのため、単純に比較できない設問もあります。

Ⅱ. 調査結果

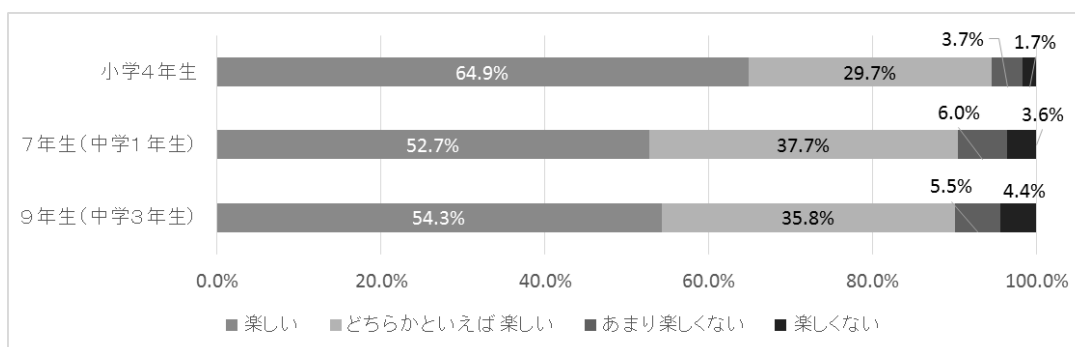
(1) 児童生徒対象調査結果

①学校は楽しいか

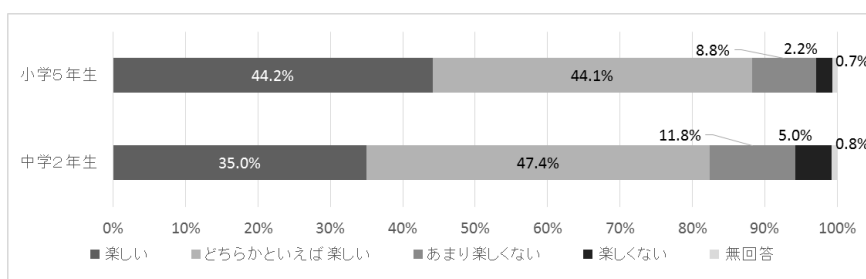
学校に通うことが楽しいかという設問では、「楽しい」という回答の割合が最も多く、4年生が64.9%、7年生が52.7%、9年生が54.3%となっています。また、「楽しい」「どちらかといえば楽しい」と回答した割合の合計は、調査対象のすべての学年で9割を超えています。

平成22年度の調査結果との比較では、対象としている学年は異なりますが、「楽しい」と回答した割合は、小学生では20.7%、中学生では7年生で17.7%、9年生は19.3%と大幅に増加しています。

平成27年度調査（児童生徒 問5-1）



平成22年度調査（児童生徒 問5-1）

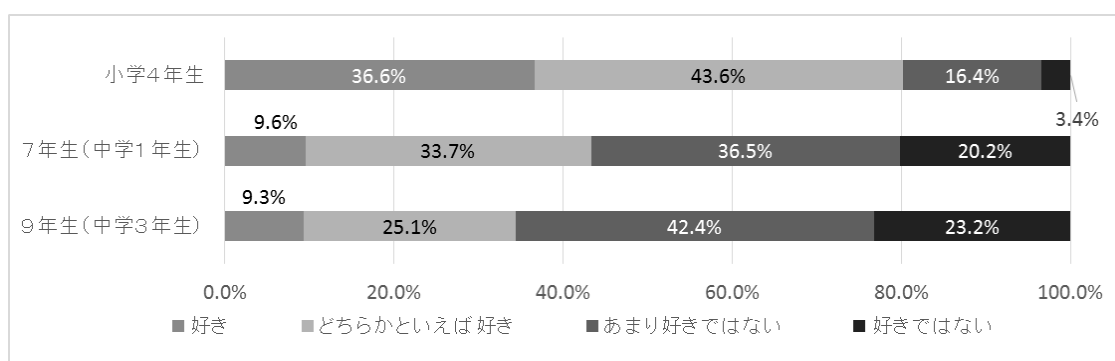


②勉強は好きか

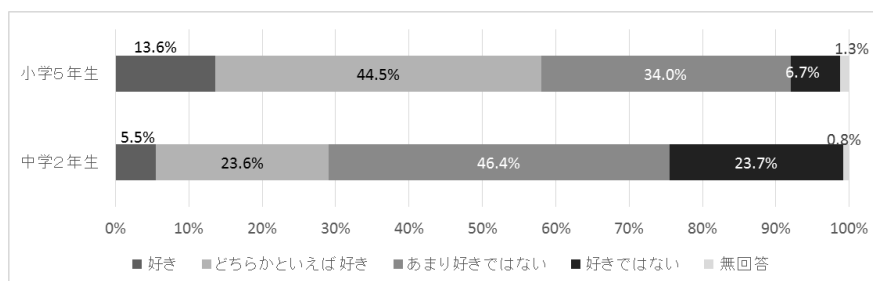
勉強が好きかという設問で、「好き」「どちらかといえば好き」と回答した割合の合計は、4年生で80.2%、7年生で43.3%、9年生では34.4%となっています。

平成22年度の調査結果との比較では、対象としている学年は異なりますが、「好き」「どちらかといえば好き」と回答した割合の合計は、小学生では22.1%、中学生では7年生は14.2%、9年生は5.3%増加しています。

平成27年度調査（児童生徒 問6-1）



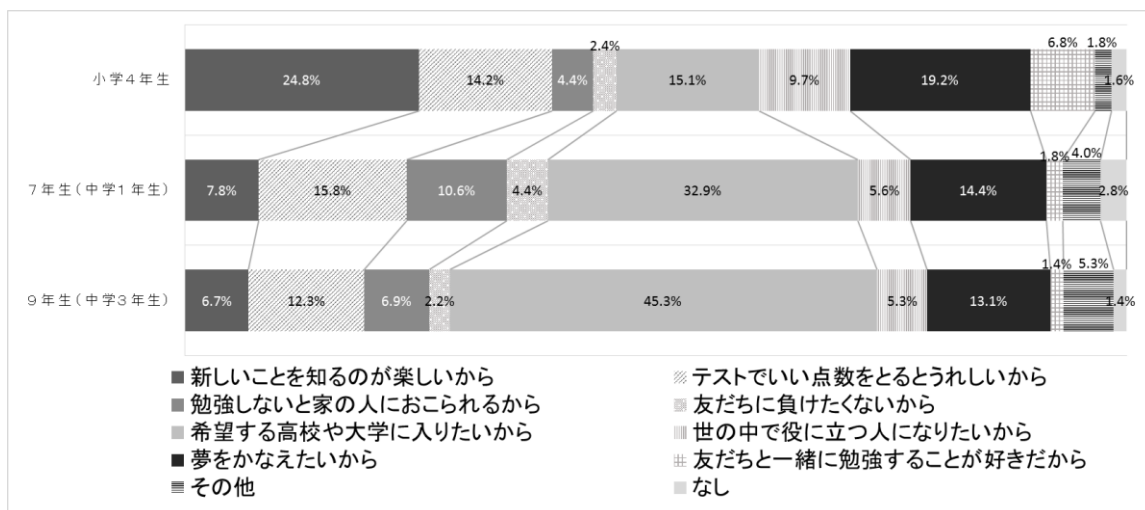
平成22年度調査（児童生徒 問6-1）



③勉強する理由

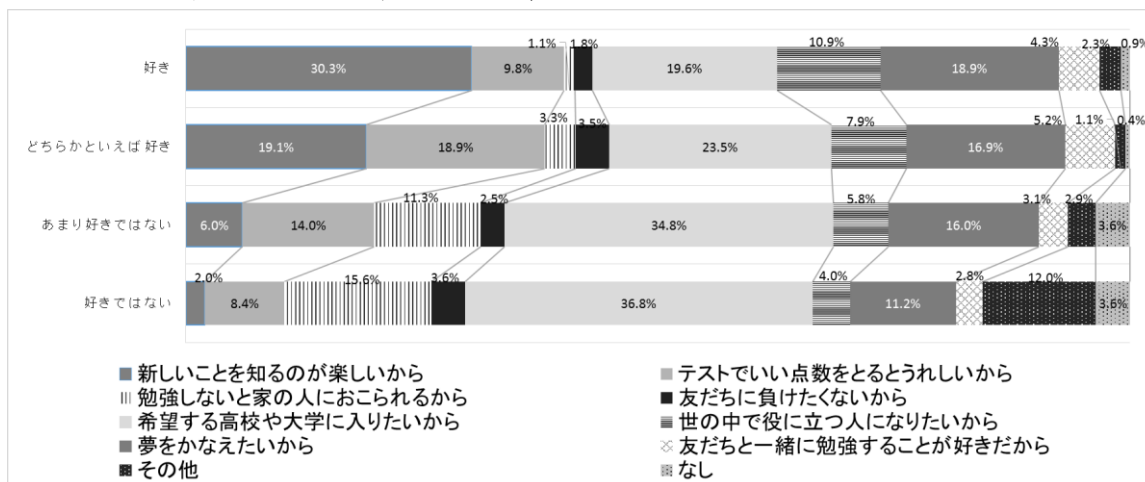
勉強をする理由では、回答した割合が最も多い項目は、4年生では「新しい事を知るの楽しい」で24.8%ですが、7年生及び9年生では「希望する高校や大学に入りたから」でそれぞれ32.9%、45.3%となっています。

平成27年度調査（児童生徒 問7）



また、勉強が好きかという設問と勉強をする理由とをクロス分析した結果については、回答の割合が最も多いものは、勉強が「好き」と回答した場合は、「新しいことを知るの楽しい」が30.3%となっていますが、「どちらかといえば好き」「あまり好きではない」「好きではない」と回答した場合は、「希望する高校や大学にはいりたいから」との割合がそれぞれ23.5%、34.8%、36.8%となっています。

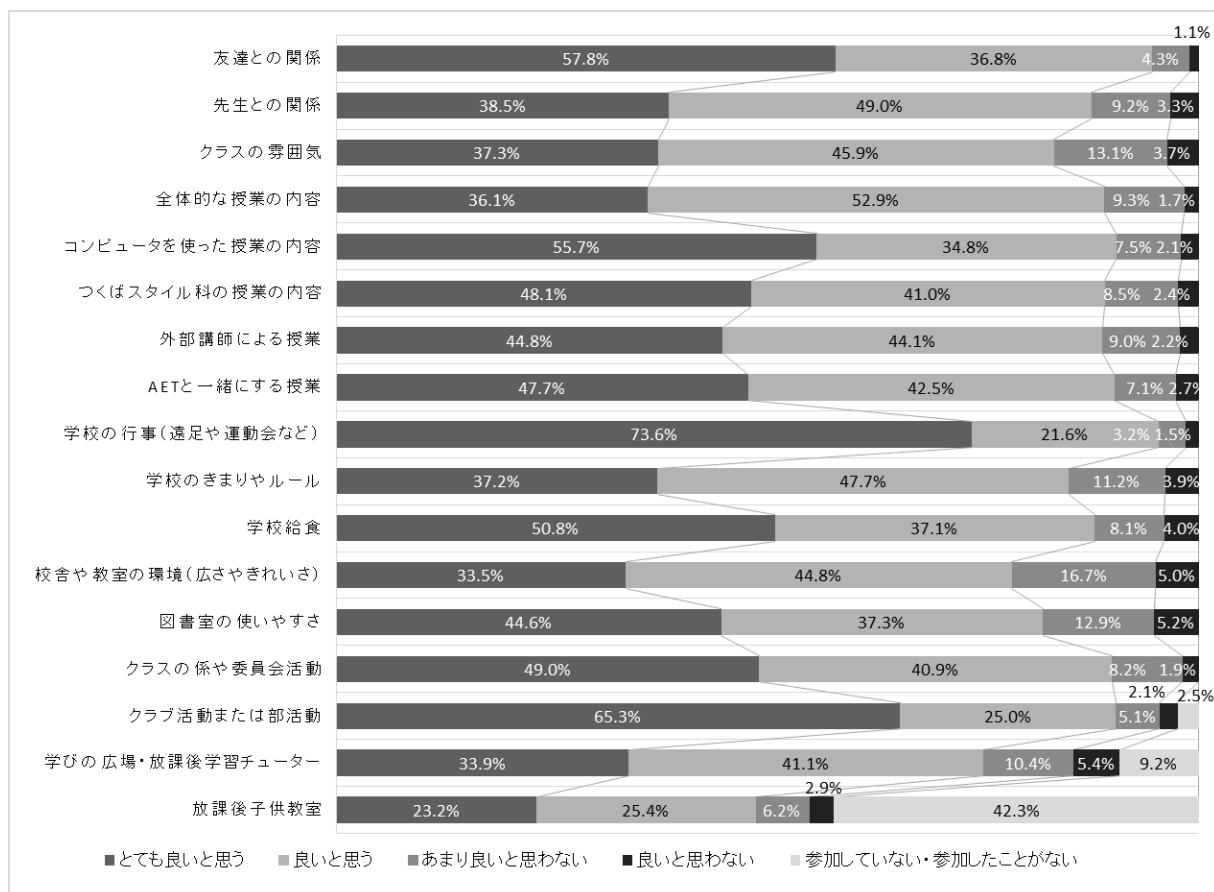
平成27年度調査（児童生徒 問6-1, 問7）



④学校生活について

学校生活において以下の各項目についてどのように思っているかという設問では、「とてもよいと思う」と回答した割合の多い上位3項目は、「学校行事」が73.6%で最も多く、次いで「クラブ活動または部活動」が65.3%、「友達との関係」が57.8%となっています。

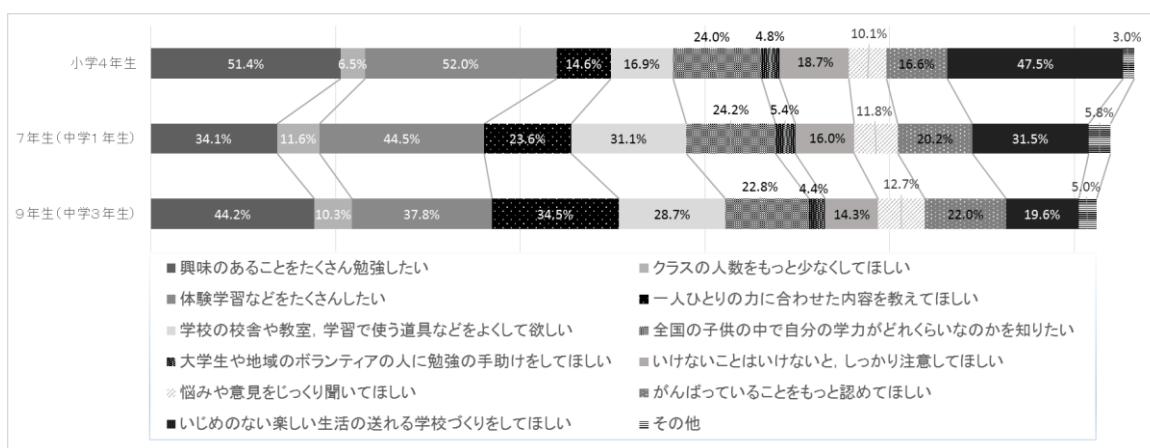
平成27年度調査（児童生徒 問8）



⑤学校や先生に望むこと（3つまで回答可）

学校や先生に望むことについての設問では、回答した割合多いも上位3項目は、4年生及び7年生では「体験学習などをたくさんしたい」がそれぞれ52.0%、44.5%、次いで「興味のあることをたくさん勉強したい」がそれぞれ51.4%、34.1%、「いじめのない楽しい生活を送れる学校づくりをしてほしい」がそれぞれ47.5%、31.5%となっていますが、9年生では「興味のあることをたくさん勉強したい」が44.2%で最も多く、次いで「体験学習などをたくさんしたい」が37.8%、「一人ひとりの力に合わせた内容を教えてほしい」が34.5%となっています。

平成27年度調査（児童生徒 問9 3つまで選択可）

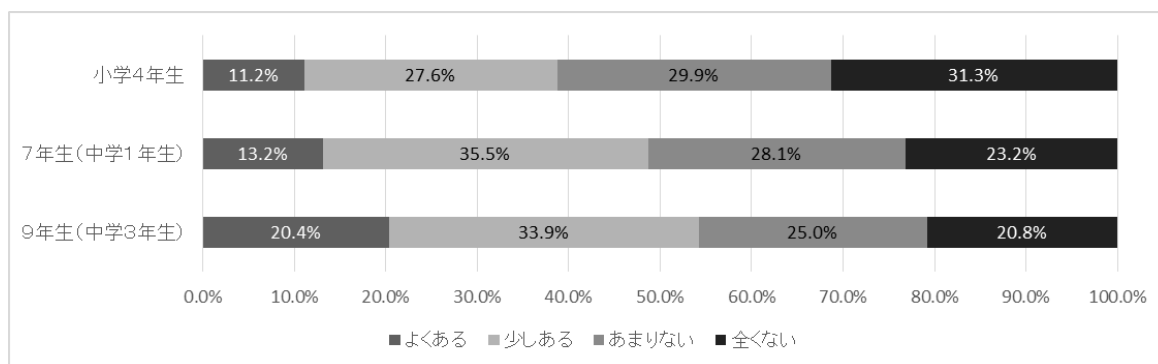


⑥心配事、悩み・不安

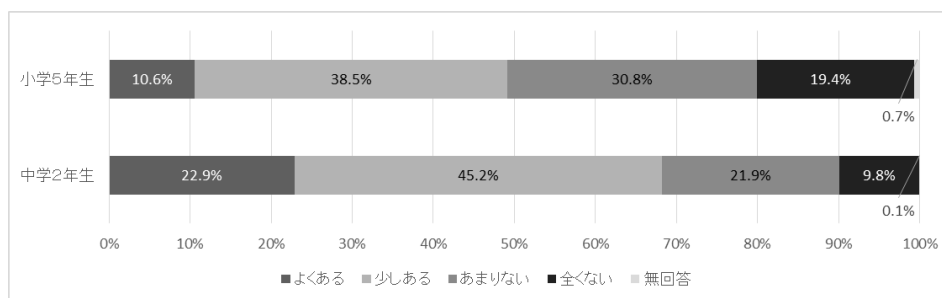
心配事や悩み・不安があるかという設問では、「よくある」「少しある」と回答した割合の合計は、4年生で38.8%、7年生で48.7%、9年生54.3%となっています。これに対し「あまりない」「全くない」と回答した割合の合計は、4年生で61.2%、7年生で51.3%、9年生45.8%となっています。

平成22年度の調査結果との比較では、小学5年生と中学2年生を対象としており学年は異なりますが、「よくある」「少しある」と回答した割合の合計は、小学生では10.3%、中学生では7年生で19.4%、9年生は13.8%減少しています。これに対し、「あまりない」「全くない」と回答した割合の合計は、小学生は11.0%、中学生では7年生で19.6%、9年生では14.1%増加しています。

平成27年度調査（児童生徒 問15）



平成22年度調査（児童生徒 問15）

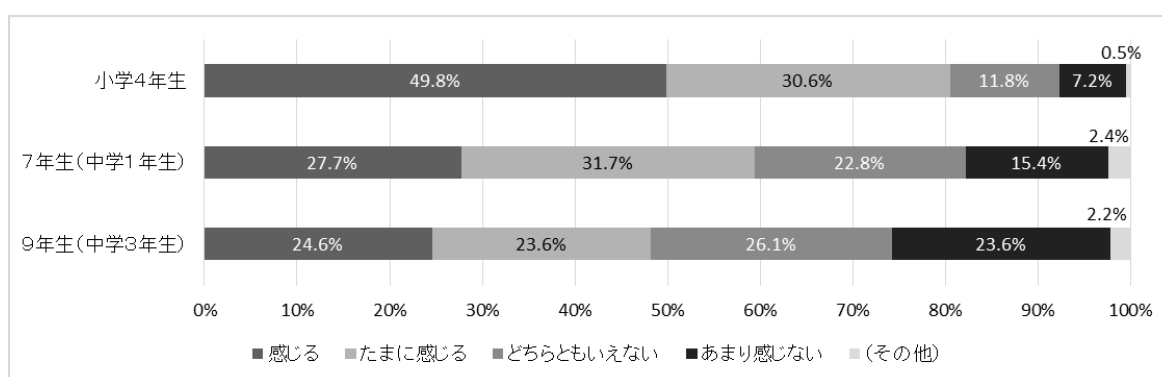


⑦地域の大人から見守られている

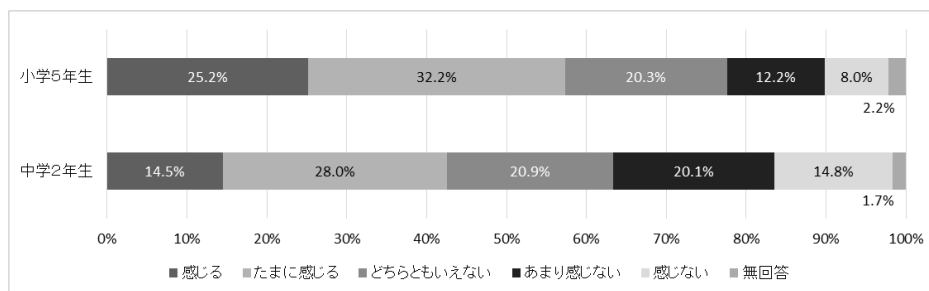
住んでいる地域の大人から見守られていると感じるかという設問では、「感じる」「たまに感じる」と回答した割合の合計は、4年生で80.4%、7年生で59.4%、9年生で48.2%となっています。

平成22年度の調査結果との比較では、小学5年生と中学2年生を対象としており学年は異なりますが、「感じる」「たまに感じる」と回答した割合の合計は、小学生では23.0%、中学生では7年生で16.9%、9年生は5.7%増加しています。

平成27年度調査（児童生徒 問21）



平成22年度調査（児童生徒 問20）

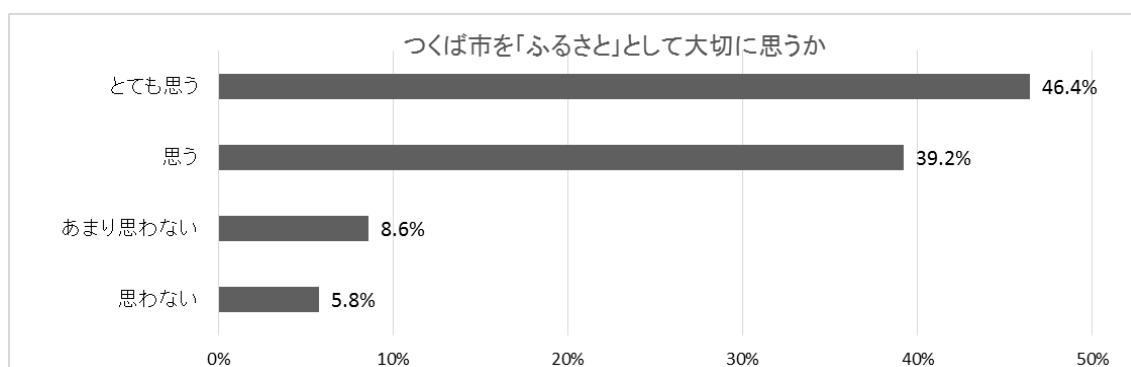


⑧つくば市を「ふるさと」として大切に思う

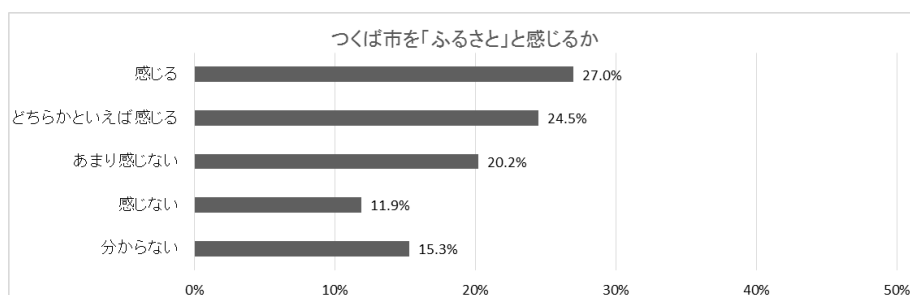
つくば市を「ふるさと」として大切に思うかという設問では、「とても思う」と回答した割合は46.4%、「思う」と回答した割合は39.2%、両者の合計は85.6%となっています。

平成22年度の調査結果との比較では、選択肢は異なりますが、「とても思う」（感じる）は、19.4%の増加、「思う」（どちらかといえば感じる）は14.7%増加しており、両者の合計では34.1%増加しています。

平成27年度調査（児童生徒 問25）



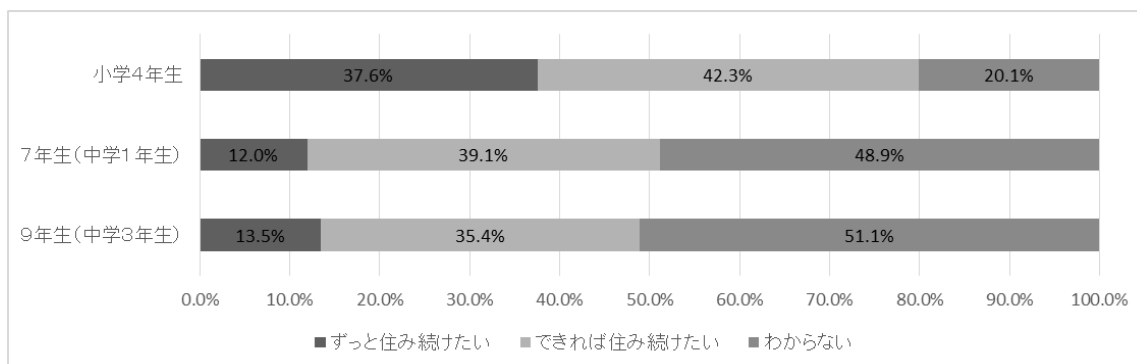
平成22年度調査（児童生徒 問25）



⑨将来つくば市に住みたい

将来つくば市に住みたいかという設問では、「ずっと住みたい」「できれば住みたい」と回答した割合は、4年生では79.9%、7年生で51.1%、9年生で48.9%となっています。

平成27年度調査（児童生徒 問26）



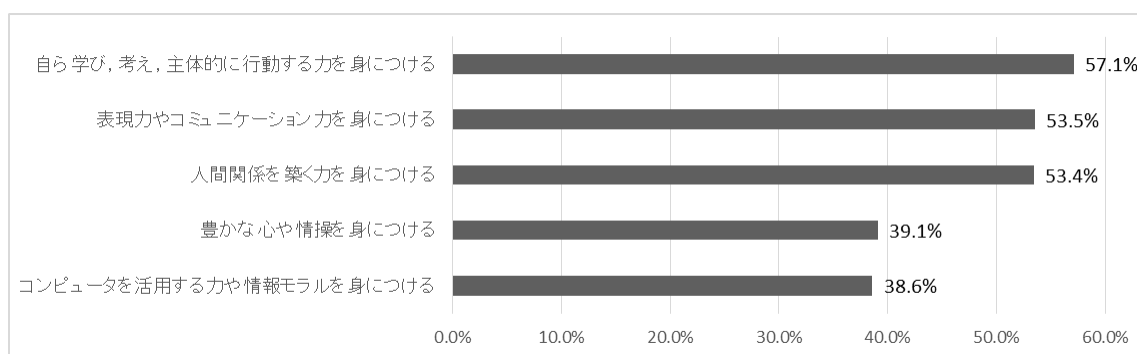
(2) 教員対象調査結果

①身につけたり，育てたりすることが重要だと思う能力や態度（5つまで選択可）

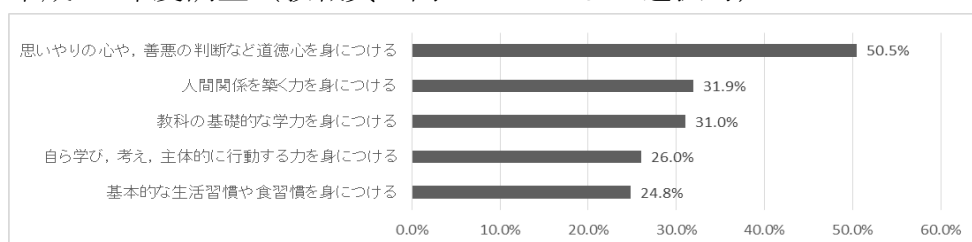
身につけたり，育てたりすることが重要だと思う能力や態度について，「自ら学び，考え，主体的に行動する力を身につける」「表現力やコミュニケーション力を身につける」「人間関係を築く力を身につける」の3項目が，5割を超える教員に重要だと考えられています。

平成22年度の調査結果との比較では，選択肢及び回答方法の相違はありますが，前回調査では上位5項目に入っていなかった「表現力やコミュニケーション力を身につける」「豊かな心や情操を身につける」「コンピュータを活用する力や情報モラルを身につける」が新たに上位5項目に入りました。また，前回と共通する「自ら学び，考え，主体的に行動する力を身につける」「人間関係を築く力を身につける」と回答した割合は，前回調査と比べそれぞれ31.1%，21.5%増加しています。

平成27年度調査（教員 問6 5つまで選択可）



平成22年度調査（教職員 問14 3つまで選択可）

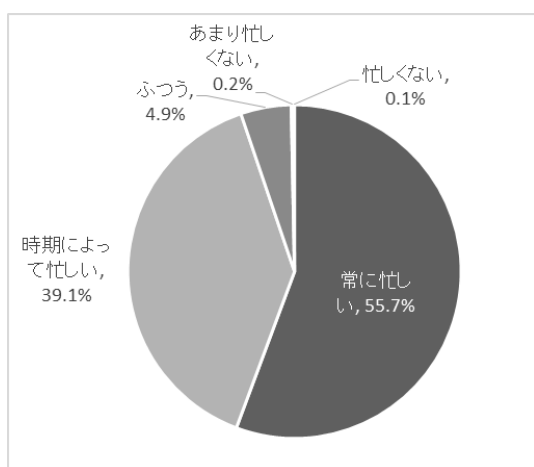


②職務の多忙感

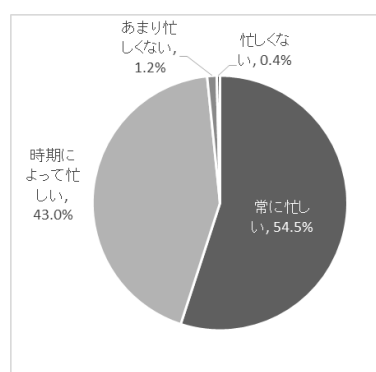
職務の多忙感についての設問では、「常に忙しい」と回答した割合が 55.7%で最も多く、次いで「時期によって忙しい」と回答した割合が 39.1%、「常に忙しい」「時期によって忙しい」と回答した割合の合計は9割を超えています。

平成 22 年度の調査結果との比較では、「常に忙しい」と回答した割合は 1.2%増加していますが、「時期によって忙しい」と回答した割合は 3.9%減少しています。また、「常に忙しい」「時期によって忙しい」と回答した割合の合計は、2.7%減少しています。

平成 27 年度調査（教員 問 10-1）



平成 22 年度調査（教職員 問 6-1）

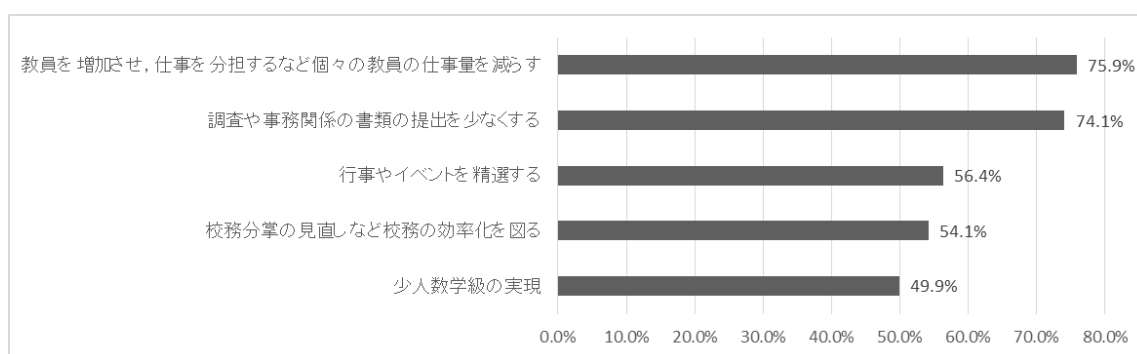


③多忙感を解消するために必要なこと（あてはまるもの全て選択可）

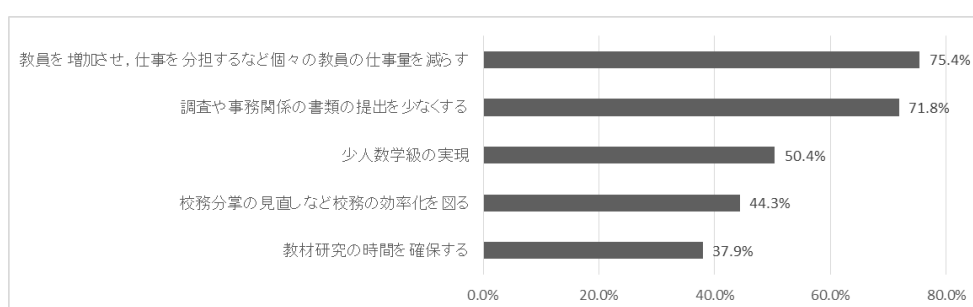
多忙感を解消するために必要なことについての設問では、「教員を増加させ、仕事を分担するなど個々の教員の仕事を減らす」「調査や事務関係の書類の提出を少なくする」と回答した割合が、上位2項目で、それぞれ7割を超えています。

平成22年度の調査結果との比較では、回答の選択肢は異なりますが、上位5項目のうち4項目は前回と共通するものとなっています。「教員を増加させ、仕事を分担するなど個々の教員の仕事を減らす」と回答した割合は0.5%、「調査や事務関係の書類の提出を少なくする」と回答した割合は2.3%、「校務分掌の見直しなど校務の効率化を図る」と回答した割合9.8%増加しています。また、新たに「行事やイベントを精選する」が上位5項目に入りました。

平成27年度調査（教員 問10-2 あてはまるもの全て選択可）



平成22年度調査（教職員 問6-2 あてはまるもの全て選択可）

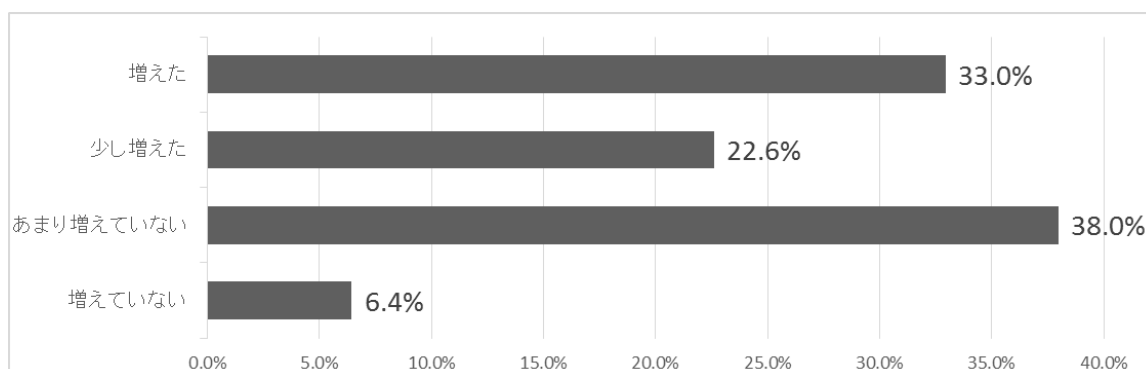


④直近1年間のストレス

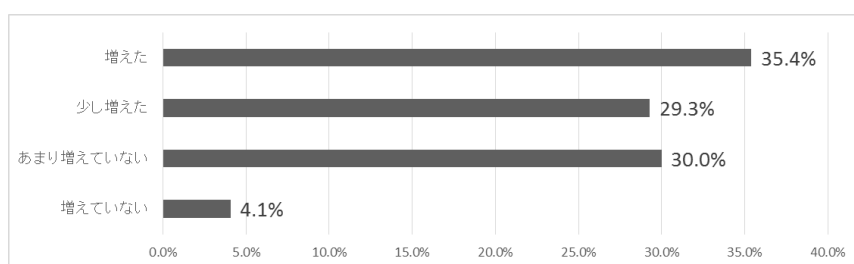
直近1年間のストレスについての設問では、「あまり増えていない」という回答の割合は38.0%で最も多く、次いで「増えた」という回答の割合が33.0%となっています。また、「増えた」「少し増えた」という回答の割合の合計は、55.6%、「あまり増えていない」「増えていない」という回答の合計は、44.4%となっています。

平成22年度との調査結果との比較では、「増えた」「少し増えた」という回答の割合の合計は、9.1%減少し、「あまり増えていない」「増えていない」という回答の合計は、10.3%増加しています。

平成27年度調査（教員 問11-1）



平成22年度調査（教職員 問7）

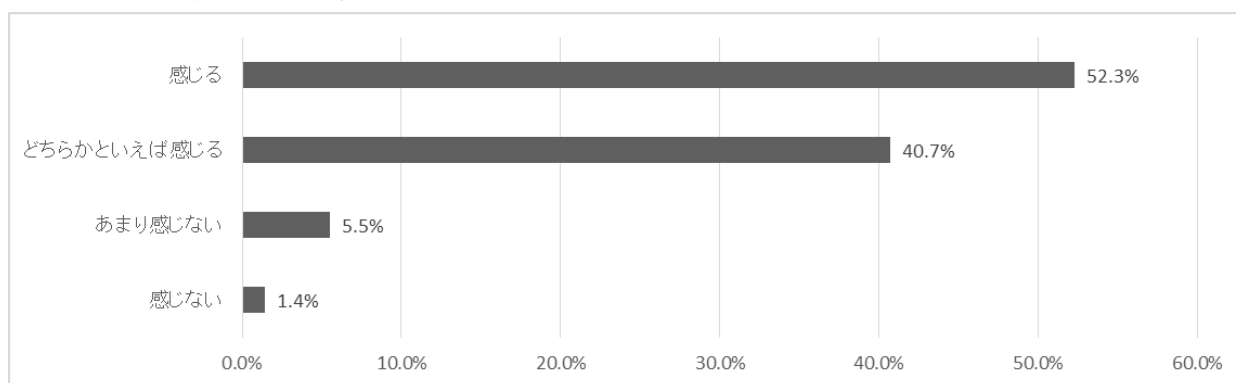


⑤教員としての生きがい

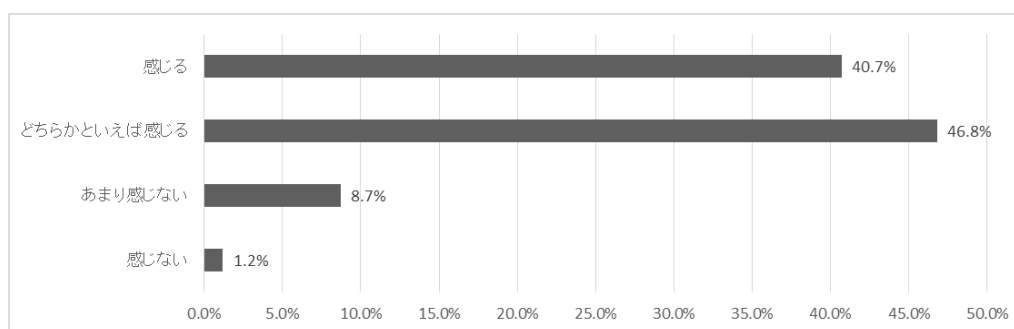
教員としての生きがいを感じるかという設問では、「感じる」という回答の割合が52.3%、「どちらかといえば感じる」という回答の割合が40.7%、両者の割合の合計は93.0%となっています。

平成22年度との調査結果との比較では、「感じる」と回答した割合は、11.6%増加していますが、「どちらかといえば感じる」は6.1%減少しています。また、「感じる」「どちらかといえば感じる」の割合の合計は5.5%増加しています。

平成27年度調査（教員 問12）



平成22年度調査（教職員 問8）

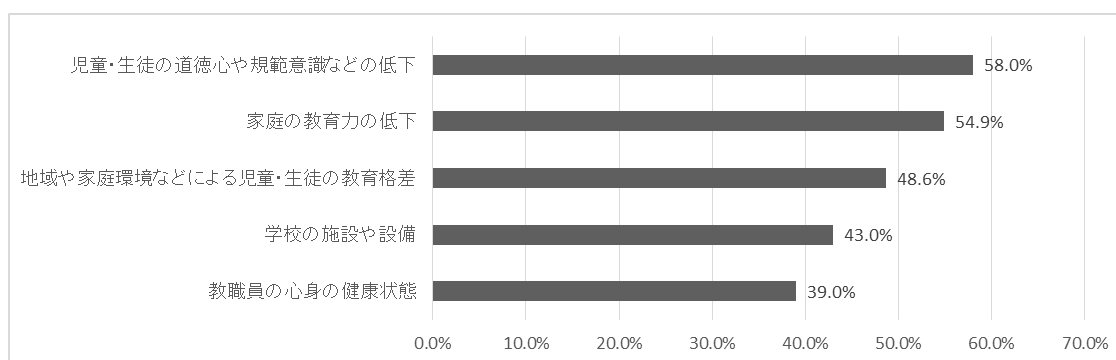


⑥職務のなかで課題と感ずること（あてはまるもの全て選択可）

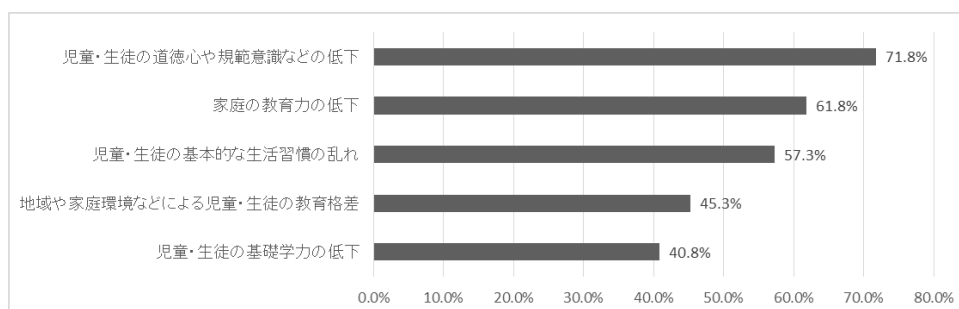
職務のなかで課題と感ずることについての設問では、回答の割合は、「児童・生徒の道徳心や規範意識などの低下」で58.0%、次いで「家庭の教育力の低下」が54.9%、「地域や家庭環境などによる児童・生徒の教育格差」が48.6%となっています。

平成22年度との調査結果との比較では、前回調査では上位に入っていなかった「学校の施設や設備」「教職員の心身の健康状態」が新たに上位になりました。また、「児童・生徒の道徳心や規範意識などの低下」と回答した割合は13.8%、「家庭の教育力の低下」と回答した割合は6.9%減少し、「地域や家庭環境などによる児童・生徒の教育格差」と回答した割合は3.3%増加しています。

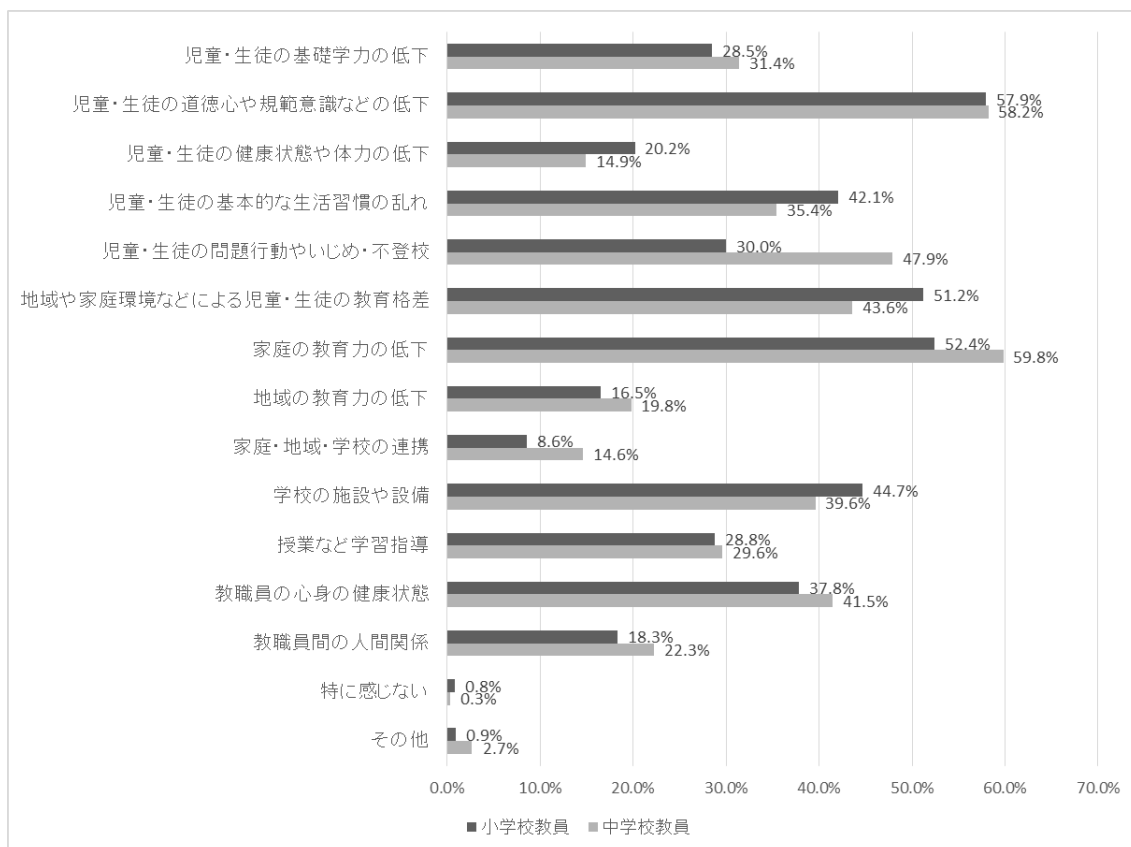
平成27年度調査（教員 問13 あてはまるもの全て選択可）



平成22年度調査（教職員 問9 あてはまるもの全て選択可）



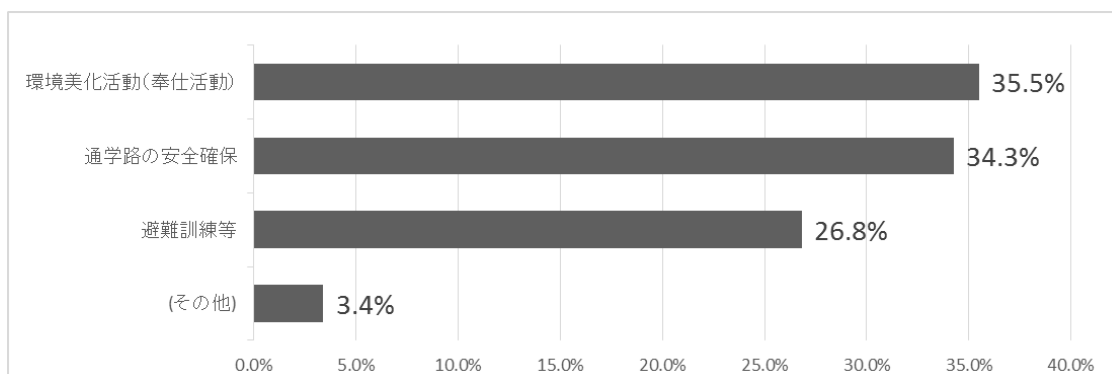
また、小・中学校の教員別で職務のなかで課題と感じることの上位3項目を比較すると、小・中学校どちらの教員も「児童・生徒の道徳心や規範意識などの低下」「家庭の教育力の低下」の回答が5割を超えて上位2項目となっています。上位3つ目の項目は、小学校教員の回答では、「地域や家庭環境などによる児童・生徒の教育格差」が51.2%となっていますが、中学校教員では「児童・生徒の問題行動やいじめ・不登校」が47.9%となっています。



⑦学校と地域の連携方法

地域との連携方法についての設問では、回答の割合が最も高い項目は「環境美化活動（奉仕活動）」で35.5%、次いで「通学路の安全確保」が34.3%、「避難訓練等」が26.8%となっています。

平成27年度調査（教員 問16）



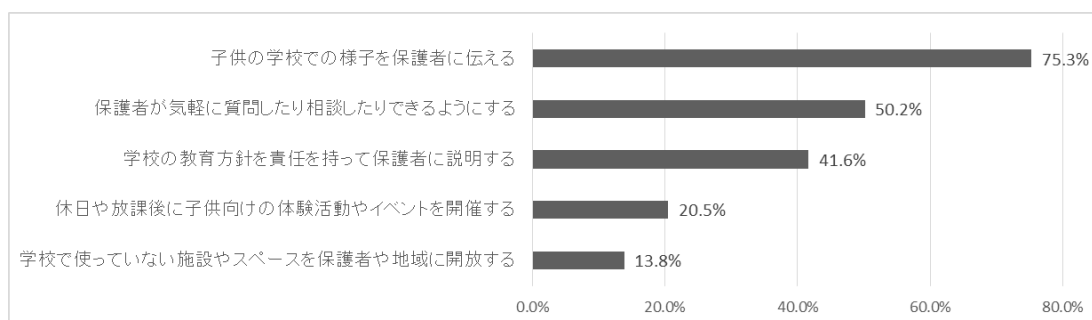
(3) 保護者対象調査結果

①学校や学校施設に望むこと（3つまで回答可）

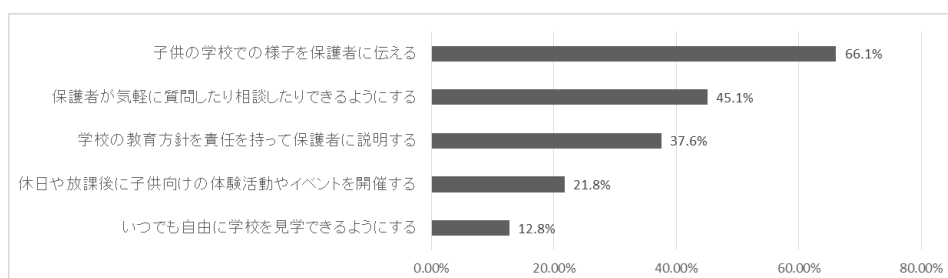
学校や学校施設に望むことについての設問では、回答の割合は「子供の学校での様子を保護者に伝える」が75.3%で最も多く、次いで「保護者が気軽に質問したり相談したりできるようにする」が50.2%、「学校の教育方針を責任を持って保護者に説明する」が41.6%となっています。

平成22年度の調査結果との比較では、上位5項目のうち4項目は同一となっていますが、「学校で使っていない施設やスペースを保護者や地域に開放する」という項目が新たに上位5項目に入りました。また、「子供の学校での様子を保護者に伝える」、「保護者が気軽に質問したり相談したりできるようにする」「学校の教育方針を責任を持って保護者に説明する」と回答した割合は、それぞれ9.2%、5.1%、4.0%増加していますが、「休日や放課後に子供向けの体験活動やイベントを開催する」と回答した割合は、1.3%減少しています。

平成27年度調査（保護者 問9 3つまで選択可）



平成22年度調査（問10 3つまで選択可）

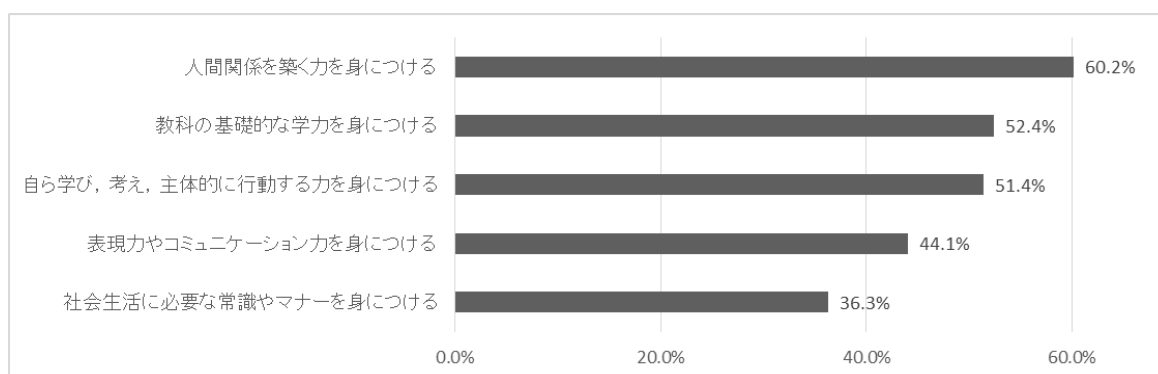


②身につけたり，育てたりすることが重要だと思う能力や態度（5つまで選択可）

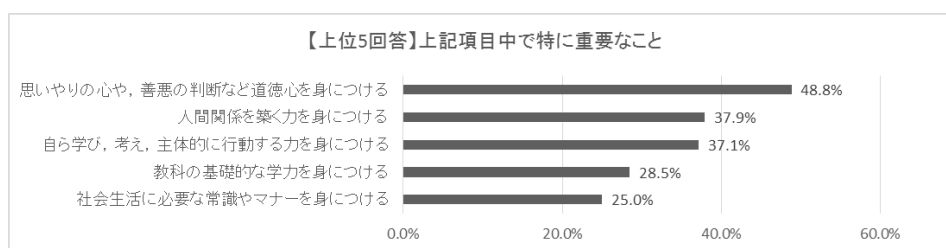
身につけたり，育てたりすることが重要だと思う能力や態度について，「人間関係を築く力を身につける」と回答した割合は60.2%で最も多く，次いで「教科の基礎的な学力を身につける」が52.4%，「自ら学び，考え，主体的に行動する力を身につける」が51.4%となっています。

平成22年度の調査結果との比較では，設問内容及び設問方法の相違はありますが，前回調査では上位に入っていなかった「表現力やコミュニケーション力を身につける」が新たに上位になりました。また，前回と共通する「人間関係を築く力を身につける」「教科の基礎的な学力を身につける」と回答した割合は，それぞれ22.3%，23.9%，と大きく増加しています。

平成27年度調査（保護者 問10 5つまで選択可）



平成22年度調査（保護者 問13 3つまで選択可）

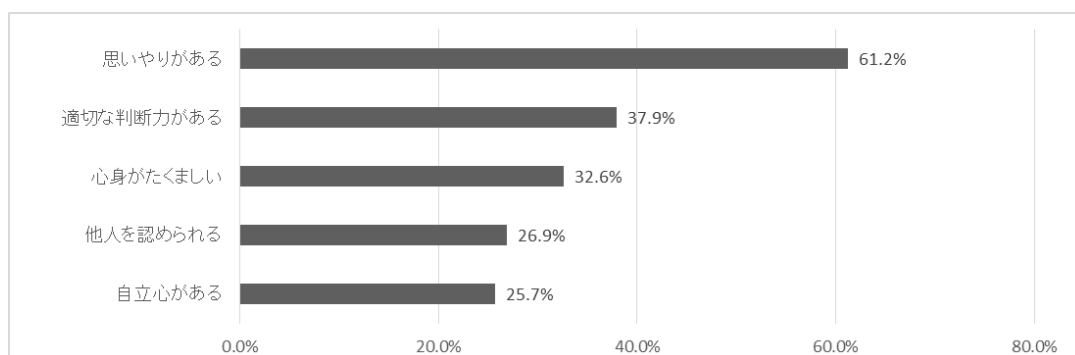


③子供たちに望むこと（3つまで選択可）

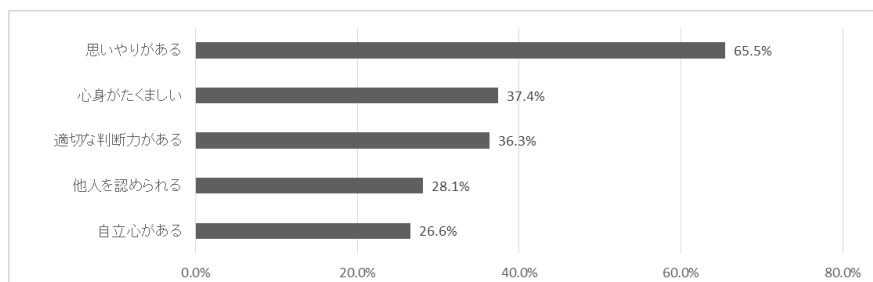
子供たちに望むことという設問では、「思いやりがある」と回答した割合が61.2%と最も多く、次いで「適切な判断力がある」が37.9%、「心身がたくましい」が32.6%となっています。

平成22年度の調査結果と比較では、回答した割合が多い5項目は前回調査と同一の項目となっています。また、前回の調査と比較し、「適切な判断力がある」と回答した割合は1.6%増加していますが、「心身がたくましい」「思いやりがある」「他人を認められる」「自立心がある」と回答した割合は減少しています。

平成27年度調査（保護者 問12 3つまで選択可）



平成22年度調査（保護者 問14 3つまで選択可）

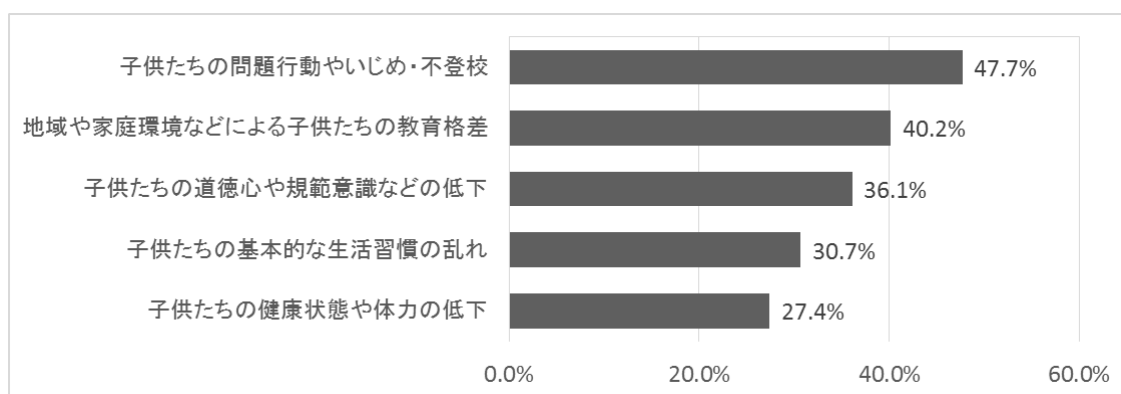


④子供たちや教育の課題と感ずること（あてはまるもの全て選択可）

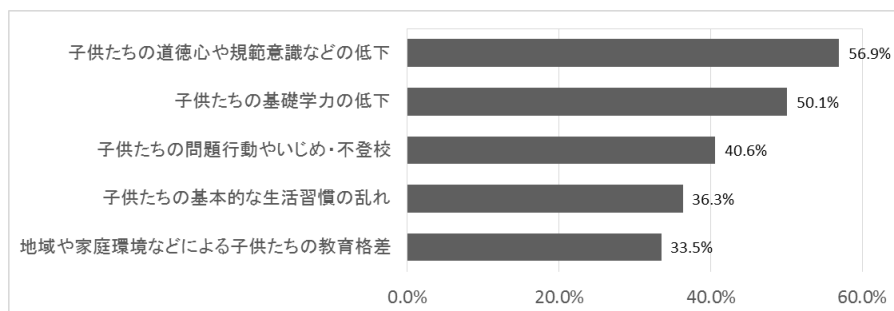
子供たちや教育の課題と感ずることという設問では、「子供たちの問題行動やいじめ・不登校」が 47.7%で最も多く、次いで「地域や家庭環境などによる子供たちの教育格差」が 40.2%、「子供たちの道徳心や規範意識などの低下」が 36.1%となっています。

平成 22 年度の調査結果との比較では、上位 4 項目については同一ですが、「子供たちの健康状態や体力の低下」という項目が新たに上位 5 項目に入りました。また、前回 56.9%と回答した割合が最も多かった「子供たちの道徳心や規範意識などの低下」は今回 36.1%で、20.8%減少しています。

平成 27 年度調査（保護者 問 13 あてはまるもの全て選択可）



平成 22 年度調査（保護者 問 15 あてはまるもの全て選択可）



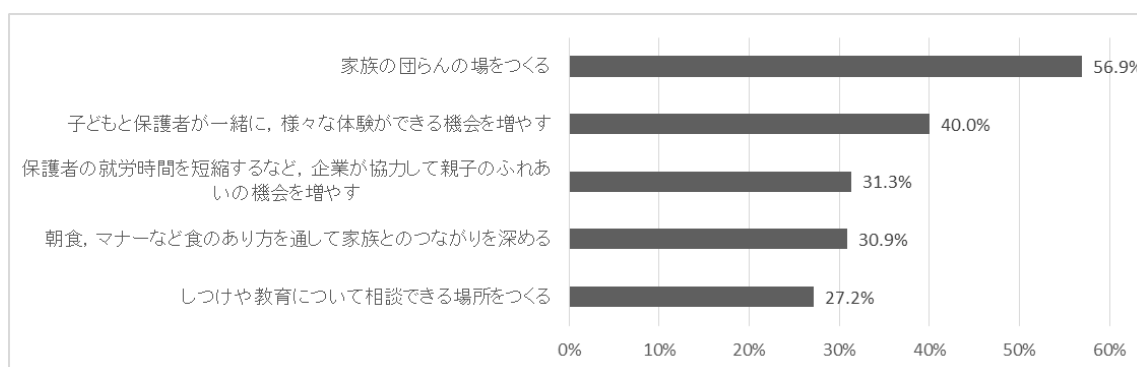
⑤必要な家庭教育の取組（3つまで選択可）

必要な家庭教育の取組という設問では、「家族の団らんの場をつくる」と回答した割合が56.9%で最も多く、次いで、「子供と保護者が一緒に、様々な体験ができる機会を増やす」が40.0%、「保護者の就労時間を短縮するなど、企業が協力して親子のふれあいの機会を増やす」が31.3%となっています。

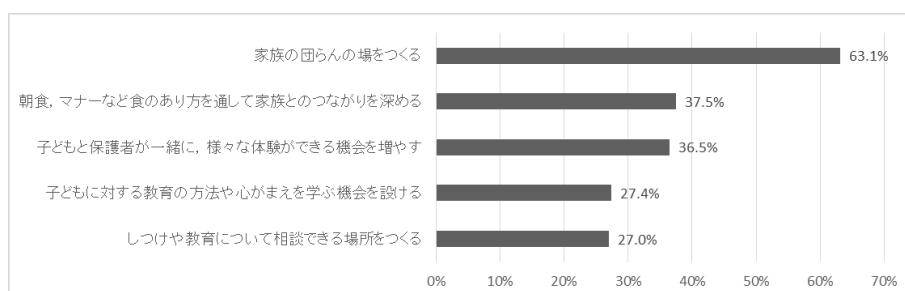
平成22年度の調査結果との比較では、「保護者の就労時間を短縮するなど、企業が協力して親子のふれあいの機会を増やす」という項目が新たに上位5項目に入りました。また、「家族の団らんの場をつくる」、「朝食、マナーなど食のあり方を通して家族とのつながりを深める」と回答した割合は、それぞれ6.2%、6.6%減少しましたが、「子供と保護者が一緒に、様々な体験ができる機会を増やす」「しつけや教育について相談できる場所をつくる」と回答した割合はそれぞれ3.5%、0.2%増加しています。

（複数回答）

平成27年度調査（保護者 問18 3つまで選択可）



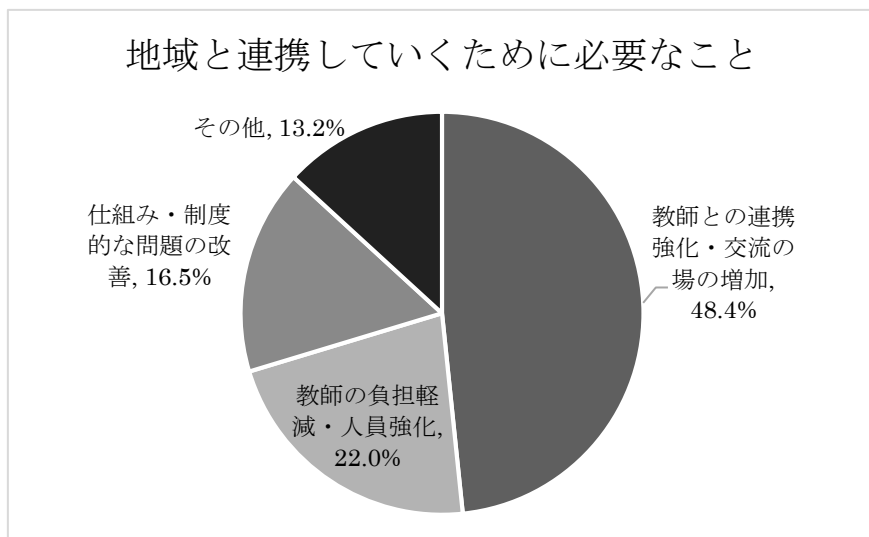
平成22年度調査（保護者 問22 3つまで選択可）



⑥家庭と学校が連携していくために必要なこと（自由記述）

家庭と学校が連携していくために必要なことについての設問では、「教師との連携強化・交流の場の増加」が48.4%、次いで「教師の負担軽減・人員増強」が22.0%となっています。

平成27年度調査（保護者 問19）

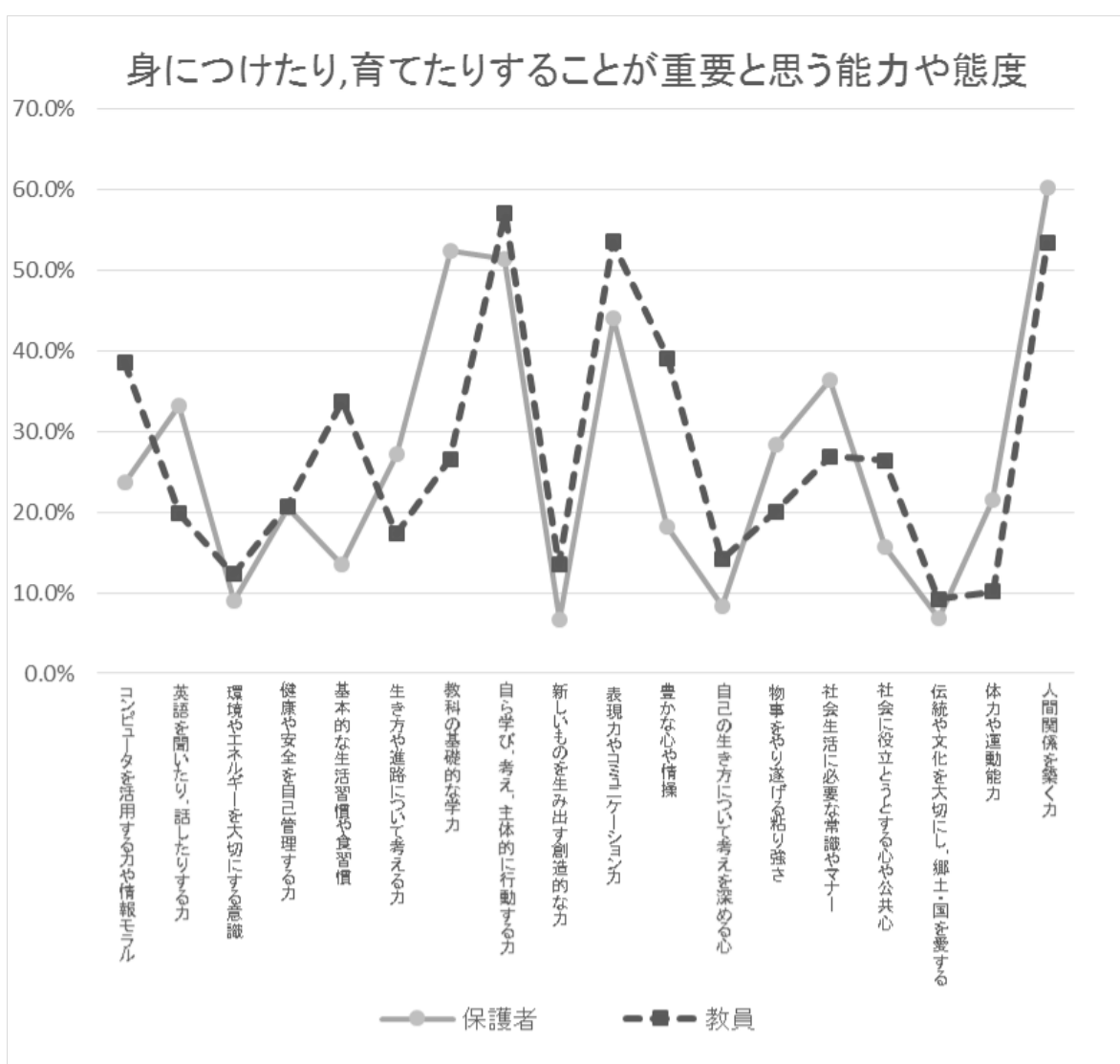


(4) 教員，保護者の比較

①身に付けたり，育てたりすることが重要と思う能力や態度（5つまで選択可）

身に付けたり，育てたりすることが重要と思う能力や態度では，「人間関係を築く力」「自ら学び，考え，主体的に行動する力」の項目が，教育と保護者で共通して高い割合となっています。一方，「基本的な生活習慣や食生活」「教科の基礎的な学力」については，教員と保護者の意識の違いが大きい項目となっています。

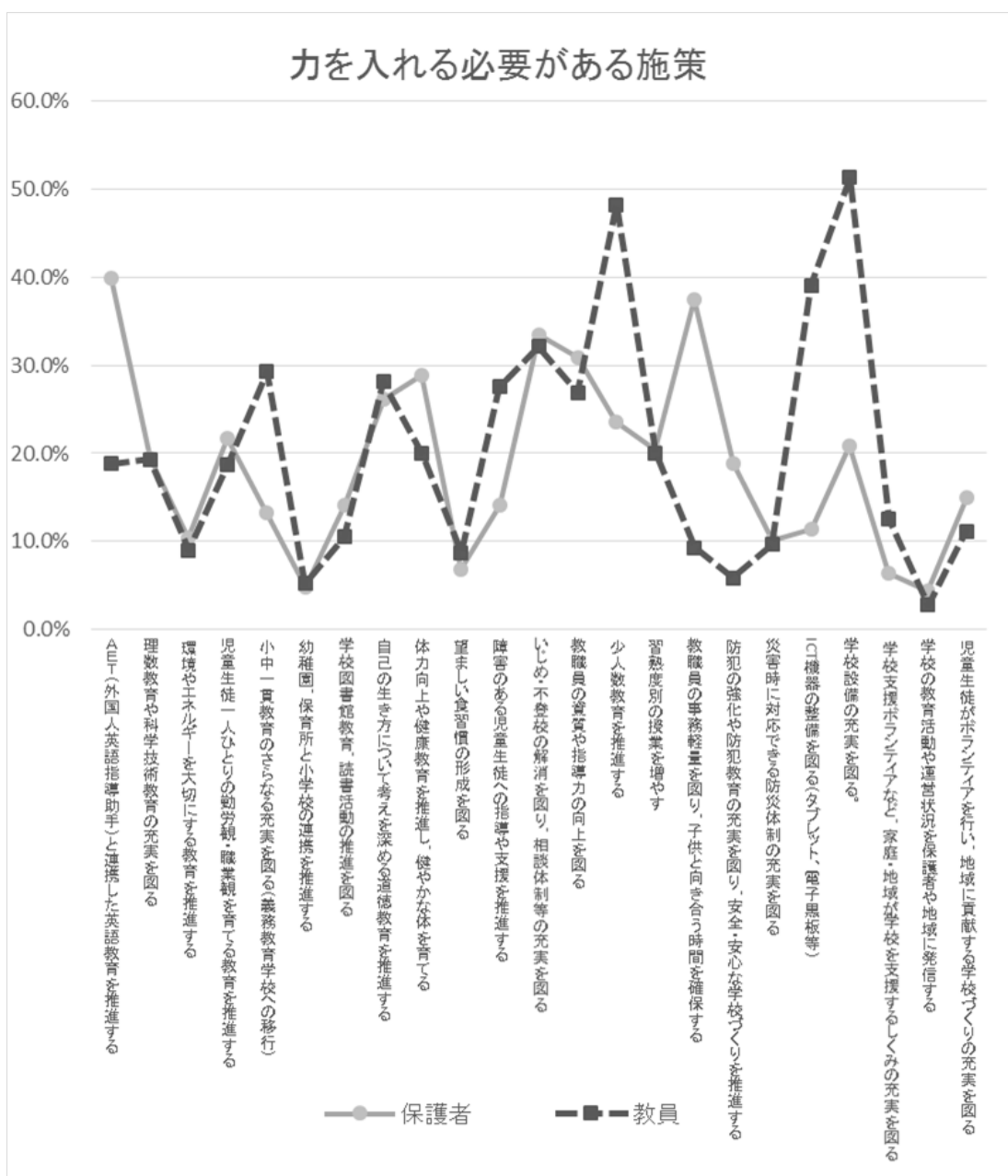
平成 27 年度調査（教員問 6 ・保護者問 10 5 つまで選択可）



②力を入れる必要がある施策（5つまで回答可）

力を入れる必要がある施策についての設問では、教員では「学校設備の充実を図る」と回答した割合が最も多く、次いで「少人数教育」、「ICT機器の整備を図る（タブレット、電子黒板等）」となっていますが、保護者では「AET（外国人英語指導助手）と連携した英語教育」が最も多く、次いで「教職員の事務軽量を図り、子どもと向き合う時間を確保する」「いじめ・不登校の解消を図り、相談体制等の充実を図る」となっています。

平成27年度調査（教員 問8・保護者 問15 5つまで選択可）



③統廃合になった学校の跡地利用について（自由記述）

統廃合になった学校の跡地利用についてどのように利活用することがよいかという設問については、教員と保護者で「交流センター・コミュニティーセンター」という回答が最も多く、次いで「公園・運動場」となっています。

平成 27 年度調査（教員 問 21・保護者 問 22）

